



### ありがとうカードをつくろう\_9/5(木)

今年度はじめてのWSに、生徒のみなさんは少し緊張気味です。講師の佐藤さんが自己紹介を兼ねて、県内の伝統工芸に新しいデザインを融合させた商品例を紹介したあと「買ってくれた人に、ありがとうの気持ちをカードで伝えましょう」とWSのテーマを発表しました。

ハガキ大の用紙に様々な画材で「ありがとう」を表します。折紙、麻紐、毛糸、クレヨンに色鉛筆。使い慣れた会津型の型紙や刷毛も準備しました。手を動かすと、自然と心がほぐれていくでしょう。会話が聞こえはじめます。お互いの手元をのぞき込み、別な画材を取りに行く。アイデアが泉のように湧き出てとまらない人もいます。

佐藤さんは、一人ひとりから工夫点を聞きます。「その工夫は、デザインの専門用語だとゾーニングといいますよ。」「青と茶の色を使っていて、色の相性がよいですね。」「知らず知らずのうちに、それぞれがかっこよく見える方法をとっていたことを丁寧に伝えます。「何もないところから、みなさんの工夫とアイデア次第でステキなものが生まれます。」モノに込める思いを大事にする佐藤さんの言葉は、生徒の皆さんにストレートに伝わります。



### 暖簾をつくろう\_10/3(木)

会津型製品を売る店にふさわしい看板づくりをしようと、あらかじめ店の名前を考える宿題を出しました。「エナジー・エコロジー屋」「さをりや」「POWER焼」「会津木工研究所」。それぞれの取り組みが伝わるお店の名前です。佐藤さんは、看板自体も会津型を使ったものにはできないかと暖簾づくりを考案。暖簾は「布の看板」ともいわれ日本独自の店先を飾るアイテムです。

暖簾の説明のあと、店の名前に使われている文字を一文字ずつ、型彫りします。画数が多い漢字を選んだ生徒は「失敗した!もっとかんたんな名前にすればよかった…」とぼやきながらも、細かな線に慎重に刃先を入れます。

色差しにも班の個性が出ます。黒一色で職人技を感じさせる木工班。「さをりや」の手工芸班は名前の由来の「さをりおり」のようなカラフルな色を入れます。

屋台の店先に、できあがった暖簾をかけると歓声があがりました。開店準備はラストスパートです。



### 屋台をつくろう\_10/18(金)

教室の一角に骨組を組み立て、白い帆布の屋根をかけると屋台ができあがります。もうこれだけで、何が始まるのかわかります。

今日は、明日にせまった文化祭「パワー祭り」で会津型製品を販売する店=屋台づくりです。佐藤さんとアシスタントの石井さんが、台の上に色とりどりの布を広げます。「自分たちの店や商品にあう色はどれかな?」「緑!」「黄色!」「水色!」話し合っ決めて、二色を組み合わせる班とそれぞれです。次は、カゴやザル、端材や麻紐などの材料を使ってのディスプレイです。モノを平置にするよりも、立てる、吊るす、ひっかかるなど立体的な配置のポイントを教わります。すると、生徒たちは楽しそうに、どんどん試します。

最後に暖簾が登場。前回のワークショップのあと、手工芸班の先生方が端をかがり、「ちち」をつけてくれました。「さをり織り」の端切れやリサイクル牛乳パックを使うなど、その班らしさがあらわれます。会津型製品一つ一つがかっこよく見える店=屋台の完成です。

### 成果展 会津支援学校パワー祭り\_10/19(土)

昨年度は、会津型を使った製品は試作の段階でした。今年度のパワー祭りが、一般の方に向けた初めての販売の場です。

販売開始を待ちかねて、入口には行列ができています。開始の合図とともに、お客様が一直線に向かったのは会津型の店=屋台です。

「会津型ブランディング」の集大成である屋台の下では、元気よく呼び込みをしている生徒がいます。屋台の製品が品薄になると補充して、ディスプレイをし直す生徒も見られます。会計のところでは、照れながらも「ありがとうございます」の言葉とカードをお客様にお渡ししました。

例年以上に、活気ある販売会になったと先生方からの声をいただきました。自分たちのつくったモノを「かっこよく」見せ、感謝といっしょにお客様に届けられたことが、生徒のみなさんの自信になったのではないのでしょうか。

会津型ブランディング記録紙  
編集:小林めぐみ、西尾祥子  
撮影:川延安直  
デザイン:遠藤令子  
(ヘルベチカデザイン株式会社)  
発行:福島県  
主催:福島県  
企画運営:福島県立博物館  
事業受託者:  
認定特定非営利活動法人  
ドリームサポート福島(福島市)  
協力:福島県立会津支援学校、  
ヘルベチカデザイン株式会社

#### 各班のPRまとめ



陶芸班

伝統的な会津型の図柄や色を自由に選択して型染めに取り組みました。班の友達と一緒に楽しみながら製作に取り組み、出来上がりを意識して真剣に仕上げている表情がとても印象的でした。パワー祭では、仕上がった製品をただ並べるのではなく、向きや傾きなどを意識してディスプレイに取り組みすることで、販売することの楽しさを学ぶことができました。



リサイクル班

昨年度に引き続き、会津型を使用して、カレンダー、ポチ袋、ご祝儀袋を作りました。自分たちで色差しをした暖簾のかかった屋台で売った製品は、今までの何倍も早く売れていたように思います。普段は静かな生徒も、屋台の下に立った途端、目を輝かせてお客様におすすめの商品を説明していた姿が忘れられません。



木工班

伝統的な会津型の型彫りや色漆による色差しでカフェテーブルの製作に取り組みました。活動を通じて、細かな図柄を丁寧に彫り、工夫して色差しをすることができました。会津若松市内の本屋内にあるカフェに置かれ、自分たちが製作に携わったものが実際に使われている様子を目の当たりにできたことで、皆の本当にうれしそうで、とても誇らしげな表情が印象的でした。



手工芸班

手工芸班では、オリジナル会津型を生かしたアームカバーとエコバッグを作りました。屋台の設置や製品のディスプレイについて助言いただいたパワー祭りでは、製品が素敵に飾られ、生徒のやる気も最高潮!活気あふれる販売会となりました。多くのお客様に喜んでいただき、生徒の達成感あふれる表情が印象的でした。

アートで広げる子どもの未来プロジェクトは、福島の未来を担う子ども達に、将来「新生ふくしま」を推進する人材として活躍してもらうため、多彩なアートプログラムを体験できるワークショップを実施することで、心豊かな成長を支援します。

アートによる新生ふくしま交流事業  
「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」

AIZUGATA

# 福島藝術計画2024 会津型ブランディング

FUKUSHIMA2024



会津支援学校高等部の手工芸班、陶芸班、リサイクル班のみなさんと2023年度から「会津型」を使った製品づくりに取り組んできました。今年度は木工班のみなさんもふくめて、「会津型」の製品をより「かっこよく」売れることをめざすワークショップ「会津型ブランディング」に取り組みました。デザインのプロ佐藤哲也さんと、生徒たちが会津型製品の「かっこよさ」をめざした時間です。

#### 講師紹介



ワークショップ講師  
佐藤哲也

福島県須賀川市出身。東日本大震災の爪痕が残る2011年8月、郡山市にデザインファームHelvetica Design株式会社を設立。福島の基幹産業でもある農業を中心に温泉街の再生プロジェクトや地域観光のリブランディングなどを担当。2018年にはエアリアルバージョンを推進する「一般社団法人ブルーバード」を設立。2019年には地域コミュニティ醸成拠点「ブルーバードアパートメント」(2021 グッドデザイン賞)を立ち上げ、郡山市初の都市再生推進法人として郡山市の都市計画にも参画している。現在JR郡山駅にて、こおりやま観光案内所内と併設する「D&DEPARTMENT FUKUSHIMA by KORIYAMACITY」を立ち上げ、地域、産業、観光を結びつけたプロジェクトを進めている。その土地に根差した「ロングライフデザイン」を掲げ、デザインの枠を超えて幅広く活動中。  
○アシスタント:石井浩一(ヘルベチカデザイン株式会社)

# アートによる新生ふくしま交流事業「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」

## 福島芸術計画2024 会津型ブランディング

### ABOUT AIZUGATA.

### 会津型とは

会津型は江戸時代後期から昭和時代前期にかけて喜多方でつくられていた染型紙です。和紙を重ね柿渋で染め模様を彫った型紙は、防水性に優れ繰り返し染作業で使用できました。会津型の製造・販売は幕末から大正にかけて盛んになり、東北一円で販売されていました。伝統的な模様や時代性を映した模様があり当時の流行や文化を知ることができます。製造販売を一手に担っていた小野寺家から、型紙約37,000点のほか道具類が喜多方市に一括寄贈され、喜多方の大切な文化資源として現在も保存、活用されています。福島県有形民俗文化財。

#### 手芸班 SHUGEI TEAM



#### トートバック

伝統的な図柄の会津型やオリジナルで図案から作った起き上がり小法師柄の型紙を使ってトートバックを可愛らしく仕上げました。

#### 手芸班 SHUGEI TEAM



#### アームカバー

オリジナルの型紙図案には会津支援学校のキャラクター・パワーくん(右)も登場。小花を添わせて色合いも優しいアームカバーになりました。

#### 木工班 MOKKOU TEAM

#### 木工試作品各種

緻密な型紙彫りも得意な木工班では繊細な伝統柄の型紙も制作し木材を装飾しました。色とりどりに仕上げた木材はマグネットなどの新商品になる予定です。



#### 陶芸班 TOGEI TEAM



#### ①カップ ②皿

伝統的な会津型の模様を組み合わせてやきものに模様をあしらいました。顔料の使い分けで色の組み合わせも工夫しました。

#### リサイクル班 RISAIKURU TEAM



#### 2025年カレンダー

月にあわせて伝統柄やオリジナルの図案の型紙を配置しました。4月には桜、7月はスイカ、11月は見知らず柿。オリジナル図案も見どころです。



#### ご祝儀袋

松竹梅や唐花など伝統的な図案やご祝儀袋に合うようにオリジナルで作った型紙を使って華やかなご祝儀袋を作りました。



#### ポチ袋

梅や鳥など伝統的な図案を使ってつくった色とりどりのポチ袋。誰かに手渡したくなる可愛らしさです。



#### コースター

オリジナルの赤ペコ図案の型紙を使ったコースター。色違いのペコたちが楽しげで、揃えたくくなります。